第七講『讃岐典侍日記』

次の文章は、かつて堀河天皇（在位一〇八六～一一〇七）に出仕していた筆者が、亡き堀河天皇をしのびつつ、六歳の鳥羽天皇に仕えている場面である。これを読んで、問いに答えよ。

あまりなるまでかしづかせたまひし御ことは、思ひ出でらるるに、御前(おまへ)におはしまして、「われ抱(いだ)きて、障子(さうじ)の絵見せよ」とおほせらるれば、(ア)<u>よろづさむる心地すれど</u>、朝餉(あさがれひ)の御障子(みさうじ)の絵、御覧ぜさせ歩くに、夜の御殿(おとど)の壁に、明け暮れ目なれておぼえむとおぼしたりし楽(がく)を書きて、押しつけさせたまへりし笛の譜の、押されたる跡の、壁にあるを見つけたるぞ、あはれなる。

　笛の音(ね)の押されし壁の跡見れば過ぎにしことは夢とおぼゆる

かなしくて袖を顔に押しあつるを、(イ)<u>あやしげに御覧ずれば</u>、心得(こころえ)させまゐらせじとて、さりげなくもてなしつつ、「あくびをせられて、かく目に涙の浮きたる」と申せば、「みな知りてさぶらふ」とおほせらるるに、あはれにもかたじけなくもおぼえさせたまへば、「いかに知らせたまへるぞ」と申せば、「ほもじのりもじのこと、思ひ出でたる(ウ)<u>なめり</u>」とお

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

ほせらるるは、堀河院の御こととよく心得させたまへると思ふも、うつくしうて、あはれもさめぬる心地してぞ笑まるる。

（『讃岐典侍日記』による。）

（注）
かしづかせたまひし御こと――堀河天皇が筆者を寵愛（ちょうあい）なさっていたこと。
朝餉――天皇が朝食をとる部屋。
夜の御殿――天皇の寝所。
楽――楽譜。
押しつけ――（楽譜を壁に）貼りつけ。
押されたる跡――貼りつけてあった楽譜をはがした痕跡。
笛の音――笛の楽譜。
ほもじのりもじのこと――「ほ文字」と「り文字」で「堀」。堀河天皇のことを遠回しに表す。
堀河院――堀河天皇。鳥羽天皇の父。

問一　傍線部ア「よろづさむる心地すれど」について、何から「さむる心地」がしたのかを明らかにして口語訳せよ。

問二　傍線部イ「あやしげに御覧ずれば」を、主語を明らかにして口語訳せよ。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

問三　傍線部ウ「なめり」を文法的に説明せよ。

問四　傍線部エ「笑まるる」について、その理由をわかりやすく説明せよ。

問五　この文章の出典は『讃岐典侍日記』である。この作品よりも後に成立した日記を次の中から一つ選べ。

a　十六夜日記
b　和泉式部日記
c　蜻蛉日記
d　更級日記
e　土佐日記

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

【補足】（講義動画中に使用します）

『**土佐日記**』

作者…**紀貫之**
成立…平安前期
内容…土佐守の任期を終えた貫之が、**土佐から帰京するまで**の五十五日間を、**女性に仮託**して仮名文で書いた船旅日記。
京都から娘も一緒に土佐へ連れて行ったが、土佐で病気のため亡くなる。**亡くなった娘への哀惜**と、天候不順等でなかなか船が進まず帰れないなど、**帰京への切実な願い**などが書かれている。
特徴…**最初の仮名日記（女性仮託）**。
軽妙・簡潔な文章。
冒頭文…**「男もすなる日記（にき）といふものを、女もしてみむとてするなり。」**
ポイント…**「女子・恋ふる人・昔へ人・いにしへ人・亡き児・見し人・小松**（比喩）**・白玉**（比喩）**」**＝**亡くなった娘**

『**蜻蛉（かげろふ）日記**』

作者…**藤原道綱母（みちつなのはは）**
成立…平安中期
内容…**夫藤原兼家（かねいえ）**との**結婚生活の不満**を吐露（兼家は**物忌みなどを口実**にして通ってこず浮気をしている）。
一夫多妻時代の**女性の苦悩**。作者は苦悩のあまり出家まで考える。兼家との**一人息子の道綱が生きがい**。
ポイント…**「幼き人・ただ一人ある人」**＝**道綱**

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

『和泉式部日記』

作者…和泉式部（**←有名な歌人**）

成立…平安中期

内容…恋人の**為尊（ためたか）親王**（**故宮**）と死別。悲しみにくれている作者を**為尊親王の弟敦道（あつみち）親王**（**帥宮（そちのみや）**）が慰め、**恋愛へと発展**していく過程が書かれている。**贈答歌が多い**。**「多情女」**と敦道の乳母などから批判もされている。作者は自分のことを作品中では**「女」**と**三人称**を用いて書いている。

ポイント…主語把握は**敬語**が使える！**〈地の文〉**

尊敬語有＝敦道親王（帥宮）
尊敬語無＝作者（和泉式部・女）
謙譲語有＝作者→敦道親王へ
が多い。

『紫式部日記』

作者…紫式部（**←一条天皇の中宮彰子に仕えた女房**）

成立…平安中期

内容…「前半」宮中での行事や中宮彰子の出産など**宮廷生活の記録**。

「後半」同僚の女房（**和泉式部・赤染衛門**）や、**清少納言の人物批評**。**憂愁に満ちた自己の内面**を吐露。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

『更級（さらしな）日記』

作者…**菅原孝標女（すがわらのたかすえのむすめ）**（←母方の**伯母が藤原道綱母**）

成立…平安中期

内容…国司の娘として東国の果てで育つが、十三歳のとき、父の任国**上総から上京**するときから、夫と死別した晩年までの**回想日記**。少女時代、上京する際の紀行文、都での生活、仏教の進行などが書かれている。**作者は少女時代、物語の世界に夢中**になり、特に**『源氏物語』**に憧れていた。後年は、物詣に夢中になり仏教を頼る。

冒頭文…**「あづまぢの道のはてよりも、猶（なほ）おくつかたに生ひいでたる人、いかばかりかはあやしかりけむを、いかに思ひはじめけることにか、世の中に物語といふもののあんなるを、いかで見ばやと思ひつつ…」**

ポイント…冒頭文の出だし**「あづまぢ～生ひいでたる人」＝作者自身**のこと

『讃岐典侍（さぬきのすけ）日記』

作者＝藤原長子（ちょうし）

成立…平安後期

内容…「上巻」**堀河天皇の発病から崩御**までが書かれている。熱心に看病をするが天皇は崩御し、作者は嘆き悲しみ天皇を追憶する。

「下巻」堀河天皇の父である**白河院から、幼帝鳥羽天皇への再出仕命令**が下る。最初は渋々参内し、**宮中生活の中で何かにつけて堀河天皇を偲ぶ**が、徐々に鳥羽天皇をいとしく感じていくようになる。

ポイント…**時制に気を付ける**こと。**堀河天皇が元気な場面は、回想場面。二重尊敬＋「過去」**の主語は**堀河天皇**が多い。**二重尊敬のみ**で**「いはけなし」**などの単語で表現されていれば**鳥羽天皇**。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

『十六夜(いざよひ)日記』

作者…**阿仏尼（←『うたたね』の作者）**

成立…鎌倉中期

内容…夫藤原為家の死後、先妻の子と我が子との間に**領地相続争い**がおき、その**訴訟のため、京都から鎌倉へ下った紀行文**。子を思う母親の愛情が溢れている。

★日記成立順

〈平安前期〉土佐日記→〈平安中期〉蜻蛉日記→和泉式部日記→紫式部日記→更級日記→〈平安後期〉讃岐典侍日記→〈鎌倉中期〉十六夜日記

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第七講　復習問題

①「あはれとおぼしめしたりけるなめり」の傍線部の文法的意味として、最も適当なものを次の中から選べ。

ア　当然　イ　伝聞　ウ　完了　エ　回想
オ　詠嘆　カ　断定　キ　婉曲　ク　反実仮想

②　次の文章は『讃岐典侍日記』の一節である。読んで後の**問**に答えよ。

「降れ、降れ、こ雪」と、いはけなき御けはひにておほせらるる、聞こゆる。

問　傍線部は誰の言葉か。正しいものを次の中から選べ。

ア　作者の子供　イ　堀河院　ウ　鳥羽天皇　エ　人々

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

③　次の文章は『讃岐典侍日記』の一節である。読んで後の**問**に答えよ。

御帳（みちやう）の帷（かたびら）見るにも、まづ、（A）おほせられしことども、（B）思ひ出でらる。昔をしのぶいづれの時にか露かわく時あらんとおぼえて、かたしきの袖（そで）もぬれまさり、枕（まくら）のしたに釣（つ）りしつばかり、よろづのことに目のみ立ちて、たがふことなくおぼゆるに、ただ（ひと所）の姿の見えさせたまはぬと思ふぞ、かなしき。御前（おまへ）の臥（ふ）させたまひたる御かたを見れば、（C）いはけなげにて大殿（おほとの）ごもりたるぞ、変はらせおはしまししとおぼゆる。…〈以下略〉

問１　傍線部Ａ～Ｃの主語を次の中から選べ。

ア　堀河天皇　　イ　鳥羽天皇　　ウ　作者

Ａ＝　　　Ｂ＝　　　Ｃ＝

問２　二重傍線部「ひと所」とは誰のことか。**問１**の選択肢の中から選べ。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

④『讃岐典侍日記』は天仁二（一一〇九）年頃に成立したとされるが、それ以後に成立した日記を次の中から一つ選べ。

ア　土佐日記　イ　紫式部日記　ウ　十六夜日記　エ　更級日記　オ　蜻蛉日記

⑤以下は『更級日記』に関する説明である。（ａ）から（ｃ）に入る適当なものを後の中から選べ。

『更級日記』の作者（ａ）は『蜻蛉日記』の作者（ｂ）の姪（めい）にあたる人物である。『更級日記』においては（ｃ）が書いた『源氏物語』に対する憧（あこが）れの思いが繰り返し綴（つづ）られている。

ア　和泉式部　イ　紫式部　ウ　清少納言　エ　藤原俊成女
オ　菅原孝標女　カ　藤原道綱母　キ　赤染衛門

ａ＝　　ｂ＝　　ｃ＝

⑥文学作品の成立順として正しいものを、次の中から選べ。

ア『蜻蛉日記』――『土佐日記』――『十六夜日記』――『更級日記』
イ『土佐日記』――『蜻蛉日記』――『更級日記』――『十六夜日記』
ウ『更級日記』――『土佐日記』――『十六夜日記』――『蜻蛉日記』
エ『土佐日記』――『更級日記』――『蜻蛉日記』――『十六夜日記』

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第七講　模範解答

問一　堀河天皇に寵愛されたことなどご健在であった頃の思い出からすっかり覚める気持ちがするが

問二　鳥羽天皇が不思議そうに御覧になるので

問三　断定の助動詞「なり」の連体形「なる」の撥音便無表記と推定の助動詞「めり」の終止形

問四　自分が泣いてしまったことを、鳥羽天皇に不審がられたので、あくびのせいにしてとりつくろったが、鳥羽天皇は作者が泣いている原因が堀河天皇のことだと幼いながらもわかっており、そのことがかわいらしく沈み込んでいた気持ちも和らぐ気持ちがしたから。

問五　ａ

〈現代語訳〉

身に余るほどまで（堀河天皇が）ご寵愛くださっていたことが、自然と思い出されていると、（鳥羽天皇が）いらっしゃって、「私を抱いて、障子の絵を見せよ」とおっしゃるので、（堀河天皇との昔の思い出から）すっかり覚める気持ちがするが、天皇が朝食をとるお部屋の障子の絵を、見せてさしあげて回ると、天皇のご寝所の壁に、（堀河天皇が、生前）朝夕いつも見て覚えようとお思いになっていた楽譜を書いて、壁に貼りつけておきなさった笛の楽譜が（あり、その楽譜を）はがした痕跡が、壁に残っているのを見つけたのは、しみじみ悲しい。

笛の音の……＝（亡き堀河天皇が覚えようとなさった）笛の楽譜が貼りつけてあったのをはがした壁の痕跡を見ると、過ぎさってしまった事が夢のように思われる。

悲しくて（涙があふれて）袖を顔に押しあてるのを、（鳥羽天皇が）不思議そうに御覧になるので、お気づかせ申し上げるまいとして、さりげなく振る舞いながら、「あくびが出てしまって、このように目に涙が浮いたのです」と申し上げると、「全部わかっています」とおっしゃるので、いじらしくも恐れ多くも思い申し上げて、「どのようにわかっていらっしゃるのですか」と申し上げると、「ほ文字のり文字のこと〔＝堀河天皇〕を、思い出しているのであるようだ」とおっしゃるのは、堀河院〔＝堀河

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

天皇〕のことだとよく理解なさっていると思うにつけても、かわいらしくて、沈んでいる気持ちも和らぐ気持ちがして、思わずほほえむ。

〔重要単語〕

○かなし【愛し】…**かわいい**。**愛しい**。
【悲し・哀し】…①悲しい。心が痛む。②ひどい。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

復習問題　第七講　解答解説

〔解説〕

① 「なめり」の「な」は、**断定**の助動詞「なり」の連体形の撥音便無表記である。よって、正解はカ。

② 『讃岐典侍日記』の主語把握方法をもとに考えると、セリフの直後が「～おほせらるる」と**二重尊敬のみ**なので、「**鳥羽天皇**」と考えられる。さらに「**いはけなき**（子供っぽい）御けはひ」からもおかしくない。よって、正解はウ。

③ **問1**　Aは「おほせられし」なので、**二重尊敬**＋**過去**の助動詞。よって、**堀河天皇**と考えられる。Bは、**尊敬語がないた**め（「思ひ出でらる」の「らる」は自発）、**作者**。Cは「大殿ごもり」で**二重尊敬相当の敬語**。さらに、「**いはけなげ**（＝子供っぽい）」からも**鳥羽天皇**。

問2　「ひと所」が「見えさせたまはぬ」と二重尊敬のみだが、訳してみると「お見えにならない」となり、その直後が「と思うのが、悲しい」なので「（亡くなったので）堀河天皇のお姿がもうここには見えないと思うのが悲しい」とつながるので、「ひと所」は「堀河天皇」と考えられる。

④ 『讃岐典侍日記』は平安時代の作品。『**十六夜日記**』は**鎌倉**時代に成立。よって、正解はウ。

⑤ 『更級日記』の作者は菅原孝標女。藤原道綱母の姪である。『源氏物語』の作者は紫式部。

⑥ 日記の成立順は、**土佐→蜻蛉→和泉式部→紫式部→更級→讃岐典侍→十六夜**。よって、正解はイ。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

〔解答〕

①カ　②ウ　③**問1**　Ａア　Ｂウ　Ｃイ　**問2**　ア

④ウ　⑤ａオ　ｂカ　ｃイ　⑥イ

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。